

ワーグナー：歌劇「リエンツィ」序曲

19世紀ドイツ・オペラの巨匠、リヒャルト・ワーグナー（1813-1883）の3作目の歌劇「リエンツィ」は、1842年にドレスデンで初演され、その評判により宮廷楽長の座についた記念すべき作品である。もともとはパリで成功したいという野心のもとで作曲されたが、当時のパリの反応は冷たかった。ワーグナーがパリで認められるのは、1860年代初頭にパリで「タンホイザー」が上演され、詩人のボードレールらが絶賛してからのことである。

ワーグナーが「大悲歌劇」と呼んだ「リエンツィ」の舞台は14世紀ローマ。民衆の願いで護民官になったリエンツィが、彼を暗殺しようとした貴族たちを釈放するが、彼らは再び陰謀をたくらむ。妹、イレーネの恋人アドリアーナもそれに加わり、イレーネは兄と恋人の板挟みになって苦悩する。民衆たちが暴動を起こし、リエンツィの館が炎上して崩れ落ち、リエンツィ、イレーネ、アドリアーナは下敷きになって死んでしまう。この最後の大スペクタクルは、彼が初演しなかったパリで流行していたグランド・オペラの定番とされていたものである。序曲はリエンツィが民衆解放を呼びかけるトランペットの音で始まり、オペラの中かの主要旋律がそれに続く

遠山菜穂美

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます

楽器編成：フルート 3（ピッコロ持ち替え 1）、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、コントラ・ファゴット、ホルン 4、トランペット 4、トロンボーン 3、チューバ、ティンパニ、スネアドラム、バスドラム、シンバル、トライアングル、タムタム、弦 5 部（スコア上の表記）